

【大会／試合スケジュールの規制（事前準備）】

大会／試合を開催しようとする期間の各会場における、過去の時間毎の WBGT 値を参考にし、大会／試合スケジュールを設定する。必要に応じて、試合時間を調整して早朝や夕方などに試合を行う、ピッチ数を増やすなどの対策を講じる。

※過去の WBGT 値は環境省『熱中症予防情報サイト (http://www.wbgt.env.go.jp/record_deta.php)』からダウンロードできる。

■WBGT = 31℃以上となる時刻に試合を始めない。(キックオフ時刻を設定しない。)

■WBGT = 31℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は、事前に『JFA 熱中症対策〈A〉 + 〈B〉』を講じた上で、試合日の前日と翌日に試合を行わないスケジュールを組む。

■WBGT = 28℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は、事前に『JFA 熱中症対策〈A〉』を講じる。

▽屋根の無い人工芝ピッチで試合を行う場合は、天然芝等に比べて WBGT 値の上昇が見込まれるため、上記の値から -3℃した値を基準とする。

WBGT = 28℃以上となる時刻は、屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しないとする『JFA 熱中症対策〈A〉 + 〈B〉』を講じなければならないため、使用不可とする。

WBGT = 25℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合には事前に『JFA 熱中症対策〈A〉』を講じる。これらの規制・対策以外にも表面温度の上昇による足底部の低温やけどや擦過症の危険を考慮すること。

『JFA 熱中症対策』

〈A〉

①ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。

※全選手／スタッフが同時に入り、かつ水や飲料等をおけるスペース。

※スタジアム等に備え付けの屋根が透明のベンチは、日射を遮れず、風通しも悪いため使用不可。

②ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。

③各会場に WBGT 計を備える。

④審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。

⑤観戦者のために、飲料を購入できる環境（売店や自動販売機）を整える。

⑥熱中症対応が可能な救急病院を準備する。特に夜間は宿直医による対応の可否を確認する。

⑦ [Cooling Break] または飲水タイムの準備をする。

〈B〉

⑧屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しない。

⑨会場に医師、看護師、BLS（一次救命処置）資格保持者のいずれかを常駐させる。

⑩クーラーがあるロッカールーム、医務室が設備された施設で試合を行う。

【大会／試合実施時の規制（当日対応）】

各会場に WBGT 計を準備し、計測した数値により対策を講じる。

[測定方法] ①必ずピッチ上で、WBGT 計の黒球が日影に入らないように計測する。計測時の WBGT 計の
高さは、プレーする選手の年齢の平均身長 $\times 2/3$ とする。

(例：高校1年生の場合 $170\text{ cm} \times 2/3 = \text{約}113\text{ cm}$)

②計測する時間はできる限り試合開始の直前かつロッカーアウトするまでに両チームに対応
方法を伝達できるタイミングとする。

③試合中もピッチに近い場所で計測し続け、数値を把握する。

④ハーフタイム時（できる限り後半開始の直前）の数値により後半の対応方法を決定し、両チ
ームに伝達する。

※原則として前後半のプレー中に数値が変わっても対応方法の変更はしない。

■WBGT = 31°C 以上の場合、試合を中止又は延期する。

やむを得ず行う場合は『JFA 熱中症対策〈A〉 + 〈B〉』を講じた上で [Cooling Break] を行う。

※中止や延期の判断は、試合前または、ハーフタイム時に行うこととし、前後半のプレー中に試合を中止・
延期はしない。試合前は大会の主催者または主管者、もしくはその代行者が必要に応じて主審と協議の上
で判断し、ハーフタイム時は主審が大会の主催者又は主管者もしくはその代行者と協議の上で判断する。

※大会主催者は中止や延期となった場合の対策や当該試合の取扱いについて予め規定しておくこと。

■WBGT = 28°C 以上の場合『JFA 熱中症対策〈A〉』を講じた上で、[Cooling Break] または [飲水タイム]
を行う。

[Cooling Break]

前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に3分間の [Cooling Break] を設定し、選手と審判員は
以下の行動をとる。

- ①日影にあたるベンチに入り休む。
- ②水・アイスパック等でカラダ（頸部・脇下・鼠径部）を冷やし、必要に応じて着替えをする。
- ③水だけでなくスポーツドリンク等を飲む。

〈留意点〉

- ・原則として試合の流れの中で両チームに有利・不利が生じないようなアウトオブプレーの時に、主審が判断して設定する。
- ・戦術的な指示も許容する。
- ・審判員は [Cooling Break] の時間を遵守するため、試合再開時には選手に速やかにポジションに戻るよう
に促すと同時に出場選手の確認を行う。
- ・サブメンバーは出場メンバーとの識別のためのビブスを着用する。運営担当者は試合再開時に出場メンバ
ーの確認について審判員をサポートする。
- ・[Cooling Break] に要した時間は「その他の理由」によって費やされた時間として前後半それぞれの時間に
追加される。
- ・[Cooling Break] を設定する場合は、試合前またはハーフタイム時のロッカーアウトまでに両チームに伝達
する。また WBGT 値に応じて、前半と後半の対応が異なる場合がある。